



小千谷市魚沼市医師会の近況

小千谷市魚沼市医師会

副会長 安 藤 秀 夫



小千谷市魚沼市医師会は、小千谷市、魚沼市、旧川口町からなる医師会です。

令和6年6月から、会長を橋敏明先生（たちはな皮ふ科クリニック）、副会長に小玉誠先生（堀之内駅前小玉医院）、安藤秀夫（安藤眼科）が務めています。また、長谷川さんが事務局長として日々仕事をこなしています。

年2回の総会と、小千谷地区では2か月に1回、魚沼地区では毎月、例会と懇親会を行なっており、会員同士の交流を深めています。県内二次医療圏が、中越圏域である小千谷市と、魚沼圏域である魚沼市からなり、分断されているように見えますが、いろいろな情報を共有し、広く情報を得られるというメリットを感じます。小千谷市、魚沼市、旧川口町地区の合計人口は7万人あまりで、会員数は71名（A会員26名、B会員45名）と小規模な医師会ですが、各会員が地域医療を守るため日々頑張っています。

令和6年1月に、ほんだ病院の本田建一先生と元小千谷病院の星野徹也先生、3月に中島脳外科内科医院の中島拓先生、9月に小林整形外科の小林一先生、12月には庭山昌明先生が相次いでご逝去されました。心から哀悼の意を表します。60代の働き盛りの2名の先生が亡くなられたことは非常に残念でなりません。令和7年4月には、川口地区の庄司内科医院の庄司智先生が閉院されま

した。

9月中旬に、「かかりつけ医機能報告制度」の概要についての説明会が、新潟県福祉保健部より行われ、正副会長と大矢理事が出席しました。医療資源の実情や課題について、医療・介護関係者と共有するのが目的だそうです。小規模で、顔の見える交流を行っている当医師会では、今までと大きな変化は特にならないのでは、という意見も出されました。

医療介護連携として、小千谷地区では「フェニックスネット」、魚沼地区では「うおぬま米（まい）ねっと」を導入しており、医療と介護間での情報共有や連携がよく取れるようになりました。また、「うおぬま米（まい）ねっと」では、医療機関間での処方や検査結果の共有により、効率的な医療の推進を図っています。

小千谷市は、錦鯉やへぎそば、四尺玉が上がる片貝まつりなど、全国的に有名な特産や名物があります。魚沼市と旧川口町地区は、四季の移り変わりの美しさや、魚野川、信濃川の大河と越後三山などが作りだす風光明媚な景観が特徴です。両地区とも全国有数の豪雪地帯であり、毎年多くの雪でニュースになります。地域の人口減少、医師会員の減少等、日本の大都市圏以外の共通の悩み、問題を抱えています。